



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

令和4年度第2回みえスタディ・チェックを 効果的に活用しましょう！！

第2回みえスタディ・チェックは、12月末までの学習内容のうち、以下の問題を中心に構成しています。

○身に付けておかなければ後の学年の学習に影響を及ぼす基本問題

○本県の経年課題（割合、図形、読む力・伝える力）の問題

実施後すぐに、S-P表から児童生徒一人ひとりや、学校、学級の強み・弱み、経年変化、どの問題でどれぐらいの児童生徒がつまづいているのかを把握し、関連問題や学-Viva!! セット等を活用して早期からの個に応じたきめ細かな指導や授業改善に活かししましょう。

S-P表の活用

これまでと同様に「授業改善サイクル支援ネット」からS-P表が提供されます。児童生徒の「強み」「弱み」や、学級全体の課題の傾向がわかります。

設問別の解答類型や領域別正答率などから、児童生徒の誤答（つまづき）の要因がどこにあるかを把握・分析し、授業改善に活かしましょう。

不注意による誤答や比較的克服が容易なものと考えられる問題が分かります。
(解答類型1、9で採点)

どちらも、正答した人数は同じだけれど・・・
3(2)→正答数が少ない児童生徒の理解・定着が図られている。
1(1)→正答数が少ない児童生徒にとって難しい問題であることが分かります。(解答類型1、9で採点)

※表中の「1、9で採点」は、「正答○・誤答×による採点」を表しています。

だけれど、何でつまづいているかを把握することで、課題に応じた授業改善や、個のつまづきにに応じた手立てが明確になります。(解答類型で採点)

解答類型に分けると、誤答のうち、半数以上が無解答であることが分かります。(解答類型で採点)

関連問題の活用

みえスタディ・チェック実施後の結果票には、設問ごとに、正解の場合はさらに難しい問題が、不正解の場合はつまづきに対応した問題へのリンクが表示されます。

「結果票」から、すぐに正解・不正解に応じた関連問題に取り組むことができるよ。

* 教師用解説資料には、出題される関連問題の一覧が掲載されています。

わり算は、いくつ分であるかを求めるとき、1つ分の大きさを求めるときに使う。	3/4 m
1.5÷3の式で求められる問題をすべて選択する	アイ
5(1)	×
R4第1回みえスタディ小算5年51関連問題4	

「結果票」の画面

答えが24になる式で求められる問題を、下の表から3問までの答えをすべて選ぼう。

ア 他題が24より大きいです。24より小さい、のこりはありません。はじめに他題は24より大きいです。

イ 他題が24より大きいです。6人に同じ数ずつ分けると、1人分は4より大きくなります。

ウ 6人に他題を24より小さい数ずつ分けると、他題は全部で24より大きくなります。

エ 24より小さい他題を6より小さい数に入ります。他題を全部つめると、6より小さい数になります。

ア イ ウ エ

正解の数をすべて入力してください。

「関連問題」の例

学習内容の理解と定着にむけて学-Viva!! セット第23弾&今日の1問の活用を

朝の短時間学習や授業、放課後の補修、家庭学習で繰り返しを！

【学-Viva!! セット第23弾】

小学校第5学年及び中学校第2学年の児童生徒を対象に、これまでの全国学力・学習状況調査等の分析結果から作成しました。国語、算数・数学、英語の学習内容において、身に付けておかなければ最終学年の学習に影響を及ぼす基本問題等で構成したワークシート集（1シート5分程度）です。

各学校に配付するとともに小5・中2の児童生徒の学習端末にも提供します。全ての児童生徒が確実に理解できるようご活用ください。

【今日の1問】（※2月1日から3月31日まで毎日1問。5～10分程度でできる問題）

小5・中2の児童生徒の学習端末に国語、算数・数学で課題のある基礎的な問題が提供されます。基礎的な内容の学び直しとしてご活用ください。

学習習慣・生活習慣・読書習慣の確立に向けた取組を！

デジタル版生活習慣・読書習慣チェックシートの活用

児童生徒が主体的に生活習慣や読書習慣を身に付けていけるよう、学習端末から CBT システムで回答・集計できる「デジタル版生活習慣・読書習慣チェックシート」を提供しています。ぜひご活用ください。

【児童生徒用画面】

生活習慣・読書習慣チェック目標入力

1週間ごとに設定

児童生徒が自分で目標を設定

- 起床・就寝時間
- テレビやスマホの時間
- 携帯やスマホのルール
- 学習時間
- 運動する内容
- 約束

が設定できます。

対象 小4以上

1日の生活をチェック

項目	10/24(水)	10/25(木)	10/26(金)
1. 8時前には起床	😊	😊	😞
2. 朝ごはんを食べる	😊	😊	😊
3. テレビやゲーム・スマホを1時間以内	😊	😊	😞
4. 勉強時間・読書時間・スポーツ・習い事などをする	😊	😊	😊
5. 家で学習する時間	😊	😊	😊
6. 1日の生活リズムを整える	😊	😊	😊
7. 1日の生活リズムを整える	😊	😊	😊
8. 1日の生活リズムを整える	😊	😊	😊
9. 1日の生活リズムを整える	😊	😊	😊
10. 1日の生活リズムを整える	😊	😊	😊

【教師用画面】

こんにちは

児童生徒の学習状況確認、児童生徒ごとのみえスタディ・チェック実施日時を確認。

提出状況の確認と解答結果作成。

児童生徒一人ひとりの結果が確認できます

学級ごとの結果が確認できます

結果をもとに、児童生徒一人ひとりの頑張りをほめたり、学級全体の様子を保護者に発信したりして、学習習慣等の確立に取り組みしましょう。

※小学校3年生以下・多言語版は、印刷して使えるチェックシートをみえの学力向上県民運動HPに掲載しています。

保護者向け動画配信中

学習習慣等の確立に向けた取組を進めるには、家庭との連携が不可欠です。みえの学力向上県民運動HPにて子どもたちの家庭学習を習慣化するためのアドバイスや家庭で活用できる資料を紹介する動画を配信しています。PTA活動の中で発信いただきますようお願いいたします。

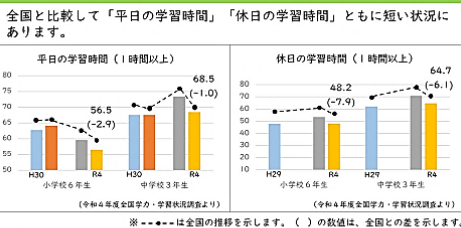


《内容》

- ・みえの子どもたちの学習時間ゲーム等の時間、読書時間の状況
- ・学習習慣を身に付けるために
- ・家庭学習・生活習慣の確立に役立つコンテンツの紹介
- ・家庭や地域での取組に役立つコンテンツの紹介

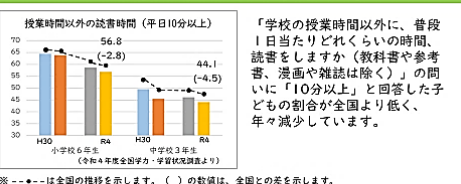


みえの子どもたちの学習時間ってどれくらい？



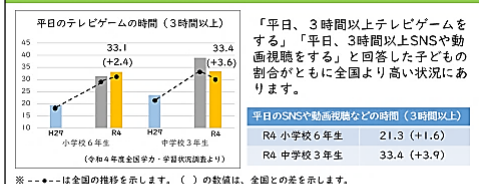
- ☐ お子さんは、いつも決まった場所で宿題等をしていますか。
- ☐ お子さんは、いつも決まった時間に宿題等をしていますか。
- ☐ 意欲やがんばりを認める声かけをしていますか。

みえの子どもたちの読書時間は？



- ☐ 家族で同じ本を読んだり、読んだ本について話をしたりしていませんか。
- ☐ お子さんと一緒に図書館に行ったり、読んだ本の記録を残したりしていませんか。

みえの子どもたちの家でテレビゲーム等をしている時間は？



- ☐ お子さんがゲームやインターネットをする時のルールを決めていますか。
- ☐ お子さんが1日にどれくらいの時間、ゲームやインターネットをしているか知っていますか。
- ☐ 早ね早おき朝ごはんの生活リズムをつくられていますか。

学習習慣を身に付けるために

- 家庭学習を習慣化することで、がんばりぬく力や授業への集中力が高まったり、いろいろな学習分野への興味関心が深まったりします。
- 子どもをほめる機会を！
- ・子どものやるうとする意欲や取り組んでいる過程のがんばりを認め、励まし、ほめていきましょう。
 - ・「なぜ、どうしてそうなの？」などの声かけが、疑問に思ったことを調べる習慣につながります。
- 一緒にルールづくりを！
- ・子どもたちが、ゲームやスマホ、インターネットを適切に使用できるよう、子どもたちと話し合い、使用時間などの家庭でのルールづくりに取り組んでいきましょう。
 - ・家庭での学習時間を確保しましょう。学習時にはテレビを消すなどの環境づくりも大切です。
- 早ね早おき朝ごはん
- ・毎日同じ時間に起床・就寝するなど、規則的な生活習慣を身に付けることが大切です。
 - ・「おはよう」から始まり「いただきます」「行きます」と、一日を気持ちよくスタートさせましょう。

学習者用デジタル教科書の活用について

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と学習者用デジタル教科書

デジタル教科書の活用においては、**学習の目的を明確にした上で**、その目的を実現するための道具の一つとして捉えることが重要です。



※これまでの方法と比較し、より良い指導方法を検討しましょう。学習者用デジタル教科書の使用に固執しないことも大切です。

デジタル教科書活用の PDCA サイクル

- ①各教科等の目標や内容を確認し、単元の指導計画を作成する。
- ②作成した指導計画のどの場面で学習者用デジタル教科書を活用し、個別最適な学びや協働的な学びを実現していくかを検討する。
- ③授業での実践を検証し、より良い活用をさらに検討する。

外国語科における学習者用デジタル教科書(教材)の活用例

今年度は、文部科学省による『令和4年度「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」』において、県内すべての小・中・義務教育学校に英語の学習者用デジタル教科書が導入されています。

○音読・朗読の音声やネイティブ・スピーカー等が話す音声を指導内容に合わせて使用する

教師による発音練習の後に、学習者用デジタル教科書とネイティブ・スピーカー等が話す音声（デジタル教材）を組み合わせ使用。

○英語を読む学習（音読）

- ・音声を聞きながら本文を黙読する。
- ・少し遅れて音読する（シャドウイング）。
⇒正確な音声に何回も触れることができる。
- ・個々の児童生徒が自分のペースで音声を止める。
- ・同じ箇所を繰り返し聞く。
⇒音のつながりなどに留意しながら練習する。

◎関連する学習指導要領の内容
(小学校外国語活動・外国語)
(中学校外国語)
〔知識及び技能〕

(1) ア 音声

- (イ) 語と語の連結による音変化
- (ウ) 語、句、文における基本的な強勢
- (エ) 文における基本的なイントネーション

○文章を書く学習（ディクテーション）

- ・教科書本文の音声を1文ずつ止めながら書き取る。
⇒個々の生徒がペースにあわせて基本的な学習を行う。
- ※「書く」という比較的時間のかかる活動を家庭でも行うことができ、学校の授業の補強的な役割を担うことができる。

◎関連する学習指導要領の内容
(中学校外国語)

1 目標

(5) 書くこと

- ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

○学習者用デジタル教科書のその他の活用例

・フラッシュカード機能

各自で新出単語の練習をする。（日本語から英語、英語から日本語、発音の確認等、個人のペースで進めることができる。）

・マスク機能（文中の選択した単語を見えなくする機能）

教科書の本文を暗唱する際にマスク機能を活用する。（マスクを新出単語のみ、25%マスク、50%マスクなど、個人のペースに合わせて練習することができる。）

・リスニング機能

スピードを調整したり、聞き取れなかった箇所をもう一度聞いたりして、個人のペースで聴きなおすことができる。

・挿絵を並べ替える

教科書本文を聴きながら、その内容にあうように挿絵を並べ替え、ストーリーの理解度を確かめることができる。

◇本ページは文部科学省 HP「学習者用デジタル教科書について」内にある、「『デジタル教科書』の効果的な活用の在り方に関するガイドライン（改訂版）」等を参考に作成しました。

⇒ https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/seido/1407731.htm

◇ネット DE 研修にて、県内の「学習者用デジタル教科書」を効果的に活用した授業が公開されています。ぜひご覧ください！

「ログインへ」→「一般研修動画」→「ICT 活用・情報教育」→「1人1台端末を活用した授業動画」→「鈴鹿市立桜島小学校（5年生：英語）」

【事例48】 熊野市立金山小学校 ～ICT機器を活用した授業実践～

金山小学校では、「自ら考え、ともに学び合う児童の育成」に向けて日々の授業改善を行っています。今年度、児童がより主体的に考え、学び合うためのツールの一つとして、ICT 機器を活用した実践を重ねてきました。今回紹介するのは、5年生の社会科における授業実践です。

5年生社会科 「工業生産とわたしたちの暮らし」 第2次「自動車工場のさかんな地域」における実践

★使用したアプリ

- ・授業支援アプリ（ロイロノート）
- ・オンライン掲示板アプリ
(padlet : パドレット)

★実践の流れ

1. 授業支援アプリを活用した考えの共有

- 個人：どのような順序で自動車を作られているのかを予想し、授業支援アプリで製造工程の写真を並び替える。
共有：「提出箱」にて各自が考えた順序を共有。

自ら考えたことを友だちの考えとシート上で見比べさせることで、ともに学び合い、自然な対話が生まれていた。

2. オンライン掲示板アプリを活用した意見交流

- 個人：ロボットが行っている仕事・工程を予想し、その理由について考える。
共有：自分の考えをオンラインの掲示板に打ち込み、共有できるようにした。

友だちの考えにコメントをさせることで、友だちの考えを知るだけでなく、掲示板での意見交流も行うことができ、考えを深めていた。

3. 1人1台端末やテレビ番組動画などを用いた検証

- 1人1台端末でも同じ動画を各自で確認させたり、テレビ番組動画を全体で視聴させたり、また教科書でも確認させたりしながら、予想に対する検証を行った。

4. ロボットが行っていた仕事とその理由等についてのまとめ

- 検証した内容（ロボットが行っていた仕事とその理由）をノートにまとめさせた。



ロイロノート上の提出箱での考えの共有

指導上の工夫

予想したことの共通点だけではなく、違いにも注目させ、なぜ違うのかを考えるように声かけをしています。

掲示板使用にあたっては、情報モラルの視点から何をコメントするかだけではなく、どうコメントするとよいのかも考えるよう伝えました。

ここは、主体的に調べるため、何を用いて調べるか、児童に決めさせることを大切にしました。

★ICTを活用したことによる成果

- ①授業支援アプリを活用したことで、児童自らが「どのように」自動車を作られているかの順序を視覚的に捉え、ともに学び合うことができた。
- ②「なぜ」ロボットが作業を行うのかという課題について、オンライン掲示板アプリを活用し、様々な視点からの意見共有や、コメントをさせることで、考えを深めることができた。
- ③オンライン掲示板アプリでは、リアルタイムに意見交流ができるため、早く考えを持てた児童が他の児童の意見に対してコメントを送りあうなど、思考し続ける様子が見られた。

●●●●●●熊野市立金山小学校長からのコメント●●●●●●

本校では、ICT教育の推進を学校運営の最重要項目として位置付け、教員も児童も「とにかくICT機器を使ってみよう」を合言葉に取組を始めました。昨年度から市教育委員会のICT教育アドバイザーの協力を得ながら、情報教育担当を中心に教員自らICT環境を体験し、日々の授業や業務等で活用する状況を意図的・計画的に創り出しています。ICT教育は、児童の言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の基盤となる資質・能力を育む新たな学びとなります。今後も、児童を中心とした授業づくりの一環として、教員同士で学び合い、取組を進めて参ります。